

令和4年度基幹型及び在宅介護・地域包括支援センターの事業実績報告 サマリー

1 基本方針

武蔵野市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画に掲げられている「武蔵野市ならでの地域共生社会」を理念とし、これまでどおり認知症や中・重度の介護になっても、高齢者の尊厳を尊重し、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう“誰もが住み慣れた地域で生活が継続できる”を基本目標と設定する。

また、“まちぐるみの支えあいの仕組みづくりー地域包括ケアの推進・強化に向けてー”を基本方針とし、基本目標の実現のため必要な人材の確保に取り組むとともに医療と介護の連携や、従来どおり、市民と行政が一体となって取り組みを推進・強化していく。

2 重点的な取り組み

(1) 包括的・継続的ケアマネジメント支援、地域ケア会議推進事業について

(資料9-1 P7～P13、資料9-3 参照)

・武蔵野市における地域ケア会議の体系図に基づき、個別、日常生活圏域、市町村レベルで地域ケア会議の開催・参加を行った。市内6か所の在宅介護・地域包括支援センターが開催した地域ケア会議では、武蔵野市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画に掲げられている「いつまでもいきいきと健康に」「ひとり暮らしでも」「認知症になっても」「中重度の要介護状態になっても」誰もが住み慣れた地域で生活するが含まれたテーマになり、それぞれの課題について関係者が集まり解決に向けた話し合いが行われた。地域ケア会議は、地域包括ケアの手法として有効である。今後も、地域課題解決に向けて積極的に活用していく。

(2) 認知症高齢者支援について (資料9-1 P15～P18)

・基幹型と6か所の在宅介護・地域包括支援センターの保健師等連絡会議を開催して認知症、フレイル予防等に関する地域づくりや支援体制の整備について情報共有及び協議を行った。また、在宅医療・介護連携推進協議会の事務局として認知症連携部会を年4回開催して、事例を通して認知症高齢者支援の体制や方法について話し合いを行った。令和4年度から、部会員として武蔵野市薬剤師会も参加してもらい、より一層連携を意識した体制作りを行った。

・認知症に関する普及・啓発は、認知症サポーター養成講座、認知症サポーターステップアップ講座を行った。令和4年度は、サポーターズミーティングを実施し、チームオレンジの立ち上げを視野に入れ活動を開始した。令和5年3月に認知症カフェを開催し、今後、チームオレンジを立ち上げ、まちぐるみの支え合いによる支援体制づくりを推進していく。

(3) 介護予防推進に向けた取り組みについて (資料9-1 P21、資料9-2 P9・11～14 参照)

・コロナ禍の外出制限等で、要介護認定者数やケアプラン作成数が減少した。しかし、令和5年3月には要介護認定者数やケアプラン作成数が前年度に比較して増加した。

これらの方は、介護予防サービスといきいきサロン、テンミリオンハウス、一般介護予防事業等も利用しながらフレイル予防に努めている。令和5年度もフレイル状態から回復するための支援を実施継続する。